エッセイ 世界へ●世界から

山

「の風が吹いているようだっ

に焼けた顔としなやかな体の

成田空港

へ降りたった。

聖なる山から来た娘

こばやし なおゆき

のチベット人の娘は、

カブを神の山として信仰していることを

刑 **みんぱく** 2010年3月号 もくじ

1 エッセイ 世界へ®世界から聖なる山から来た娘 小林 尚礼

2 ***
ふたつの「みんぱく」
一武蔵野から千里へ一

みんぱく創設の系譜―渋沢敬三の遺言 …… 須藤 健一

民族学博物館のアイヌ住家

…… 宮本 瑞夫

あれから七〇年 …… 近藤 雅樹

····· 妊藤 雅樹 民族学博物館と渋沢敬三·高橋文太郎

地域の歴史を後世につなぐ

…… 髙田 賢

夢の博物館

…… 渋沢 雅英

 モノ・グラフ みんぱくで「水」を探す 企画展「水の器──手のひらから地球まで」の裏側 田口 理恵

10 地球ミュージアム紀行 ウミスタ文化センター 先住民文化の「フォーラムとしての博物館」 吉田 憲司

11 表無し語り 高野山のしゃもじ 中牧 弘允

12 みんぱくインフォメーション

14 ^{万国 津々浦々} パイワン族の竹占 野林 厚志

15 時論 新論 理想論 ラテンアメリカの文書主義 齋藤 晃

16 **多**文化をささえる人びと 自助組織としての自立をめざして NGOベトナム in KOBE 北山 夏季

18 生きもの博物誌 羊たちのいるイタリアの風景〈ヒツジ〉 宇田川 妙子

20 歳時世相篇 ノウルーズ イランの新年 山中 由里子

22 「いのち」が育まれる場所 岩佐 光広

24 みんぱくウィークエンド・サロン 研究者と話そう 次号予告・編集後記

年前に起こった日中合同登山隊の遭難に らをすべて乗りこえて彼女はやって来た。 の移動が制限されようとしていた。 治区のラサで騒乱が起こり、 求される。さらに来日直前、 日本留学には、 の留学が実現したのだ。アジアの若者 友人で、 に暮らす彼女の父とわたしは一○年来 (梅里雪山) 七人の遺体捜索のため、 カワカブとわたしのかかわりは、 彼女は、 そこに応援者があらわれて彼女 その過程でチベット人がカワ 九九八年からは、 からやって来た。 東チベットの聖山カワカブ 多くの面倒な手続きが要 山 チベ チベ 魔の村 友人を含む 山麓 、ツト自 ッ の村

知り、聖山とは生命の源ではないかと思うようになった。聖山に登ろうとした山うようになった。をんなが快く接するわけではなかった。そんながかでわたしたちの活動を理解し、協力なかでわたしたちの活動を理解し、協力

中国の奥地からいきなり東京へ来た彼

ら巡礼や交易のために広く移動していた ばれる東チベット ていった。チベ 女は、 あげなかった。 夜も少なくなかったらしい。 係に次第に疲れていった。 や食べ物、 馴染めないことにも折りあいをつけ さまざまな問題に直面した。 異なる環境への適応力があるよう そして何よりも都会の ット人、 いつしか刺身は好きにな 特にカムパとよ 泣いて過ごす しかし音を むかしか 人間関

では、二年間で彼女の日本語はすっかり上された。 二年間で彼女の日本語は多くの方言があき来できる人は、ほとんどいないだろう。 き来できる人は、ほとんどいないだろう。 き来できる人は、ほとんどいないだろう。 音が、カワカブ周辺の言葉と日本語を行された。 二年間の留学予定だったが、一年たつころに彼女は日本の大学へ行きたいと言い合うに、 二年間で彼女の日本語はすっかり上

まだわ 果が出るだろう。 しの関係は新しい段階にうつる やったので、 験勉強をしている。 ○年の二月、 たしたちは応援することにした。二〇 い始めた。 あと四年日本の大学で勉強するの れよう。 からない。できる限りの 簡単な道のりではないが、 彼女は大学入学にむけて受 どちらになっても結果を受 四月には、 夢破れて故郷へ帰るの 桜が咲くころには結 カワカブとわ ことは 年たつ

1969年生まれ。チベットやヒマラヤで、人間の背後にある自然をテーマに撮影活動する。著書に『梅里雪山 十七人の友を探して』。『季刊民族学』最新号(131号)に聖山カワカブ巡礼の記事を掲載。毎日新聞で写真「モンスーンの恵み」を連載中(隔週月曜)。学生時は京都大学山岳部で日本中の山を登った。同大学院工学研究科衛生工学専攻修了。ホームページ:http://www.k2.dion.ne.jp/~bako/